

月刊

# Debian 専

日本唯一のDebian専門月刊誌

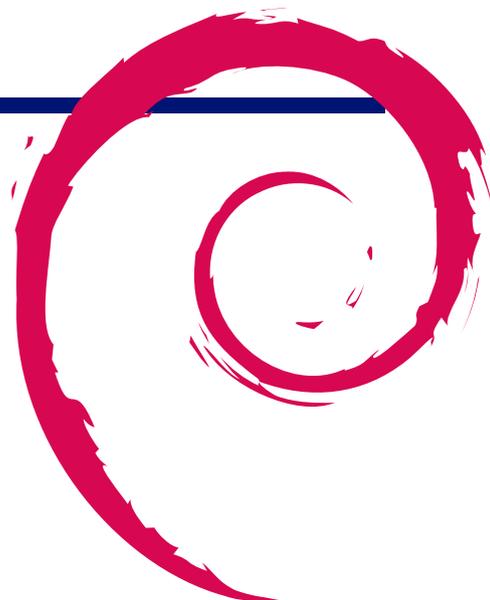
2010年10月16日

特集: 俺のDebianな一日



# 1 Introduction

上川 純一



今月の Debian 勉強会へようこそ。これから Debian の世界にあしを踏み入れるという方も、すでにどっぷりとつかっているという方も、月に一回 Debian について語りませんか？

Debian 勉強会の目的は下記です。

- Debian Developer (開発者) の育成。
- 日本語での「開発に関する情報」を整理してまとめ、アップデートする。
- 場 の提供。
  - 普段ばらばらな場所にいる人々が face-to-face

で出会える場を提供する。

- Debian のためになることを語る場を提供する。
- Debian について語る場を提供する。

Debian の勉強会ということで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがりとするスーパーハッカーになった姿を妄想しています。情報の共有・活用を通して Debian の今後の能動的な展開への土台として、「場」としての空間を提供するのが目的です。

# 5人勉強会 ハットリン勉強会 レポート

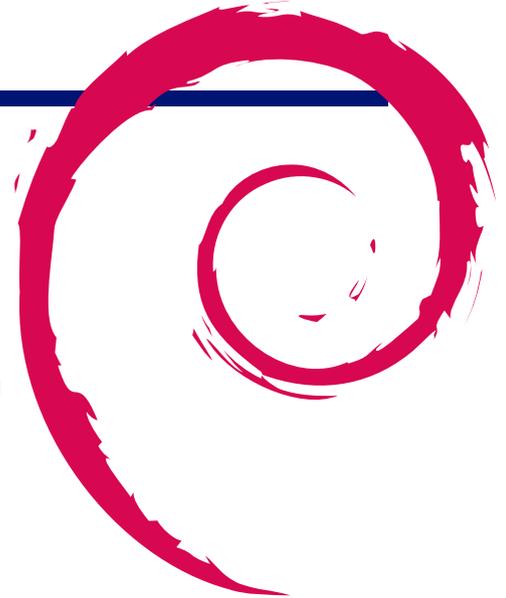
---

<b>目次</b>	
1	Introduction 1
2	事前課題 3
2.1	石川勇 . . . . . 3
2.2	あけど . . . . . 3
2.3	やまねひでき . . . . . 4
2.4	キタハラ . . . . . 5
2.5	山本浩之 . . . . . 5
2.6	鈴木崇文 . . . . . 5
2.7	まえだこうへい . . . . . 5
2.8	荒木靖宏 . . . . . 6
2.9	小室文 . . . . . 6
2.10	吉野 (yy_y-ja-jp) . . . . . 6
2.11	日比野啓 . . . . . 6
2.12	tai@rakugaki.org . . . . . 7
2.13	生活環境として... . . . . . 7
2.14	端末・ルータとして... . . . . . 7
2.15	hattorin . . . . . 7
3	最近の Debian 関連のミーティング報告 8
3.1	東京エリア Debian 勉強会 62 回目報告 . . . . . 8
4	OSC 北海道参加報告 9
5	Debian Conference 2010 参加報告 10
5.1	DebConf とは . . . . . 10
5.2	スケジュールとイベント . . . . . 11
5.3	セッション . . . . . 11
5.4	次回の Debconf . . . . . 11
6	OSC Tokyo 2010/Fall 参加報告 12
7	LinuxCon Japan 2010 参加報告 13
8	ある Debian な一日 14
8.1	始まり . . . . . 14
8.2	開発環境のメンテナンス . . . . . 14
8.3	バグレポートの処理 . . . . . 15
8.4	テストとリリース . . . . . 15
9	Mini Debconf にむけてのディスカッション 16
9.1	セッション内容 . . . . . 16
9.2	5H2H . . . . . 17
10	索引 18

---

## 2 事前課題

上川 純一



今回の事前課題は以下です:

- 俺の Debian な一日

この課題に対して提出いただいた内容は以下です。

今回の事前課題は以下です:

### 2.1 石川勇

本業ではフロントのサービスばかりを作っている自分ですが自宅には debian etch サーバが二台あります。以前 zope と相性がいいとかセキュアだとかいうのを小耳に挟んでセットアップしたものです。

こいつらあまりメンテしておらず自宅で運営してる WEB サービスが吐く apache log を圧縮してログサーバに転送したり dns サービスを使って定期更新しているといった最低限の利用でした。

ところがある日、SSD をサイズ違いで買い間違えるわけです。返品してもいいのですが、せっかくなので SSD なサーバでも作ってみようかなと思いたちました。ちょこちょこ調べてみると、まだコストパフォーマンス的には使えないという意見が多数。それでもいいから遊ぶなら何の用途に使うと楽しいのかなと探していると mysql の高速化や巨大 memcached として使う意見、などちらほらあったのですが、io がボトルネックになり、かつ書き換え回数がそんなに多くない、などの観点で流行のキーバリュ型データストアが面白そうです。

というわけで debian に最小構成から肉付けしてキーバリュ型データストアの cassandra が何かをセットアップしようと思立ち ssh をはじめちょこちょこ aptitude していくと失敗するわ失敗するわ。どうやら libedit2 がないらしいのですが、etch のものは unavailable のよう。解決できなく、etch の CD が古いからと逃げて lenny を焼きなおしてやっとスタート地点についた次第です。このままなあなあで cassandra を使い始めるのが今までの自分でしたが常々 debian で万能感を持ったサーバ管理ができればと思っていたので思い切って勉強させていただければと思っています。

右も左もわからず、ゼロからのスタートとなりますがよろしくお願いたします。

### 2.2 あけど

#### 2.2.1 朝

Debian なサーバのメンテナンス、cron-apt からのメールが来てないかチェック、来てたら aptitude update; aptitude -sy safe-upgrade として更新。内容を確認して aptitude -y safe-upgrade を実行

#### 2.2.2 昼

Debian 系の各種 ML を読んでみる。

### 2.2.3 夜

Debian なデスクトップ環境のメンテナンスとか、朝と同じく `aptitude update ; aptitude -sy safe-upgrade` として更新内容を確認して、更新があったら `aptitude -y safe-upgrade` を実行、他にも GPG のキーの更新とか

## 2.3 やまねひでき

ある初夏の日の朝の話。

寒い。夏の初めに似合わぬ事を思いながら目を覚ます。まだ目覚ましもなっていない。どうやら掛け毛布が剥ぎ取られた上に扇風機がいつの間にか回されているせいでと気づく。やれやれ。

喉が多少痛むので昨日のうちに淹れておいた水出しコーヒーで湿らせる。とにかく温かいものを、と思い余ったカレーパンをレンジで温める。ホットコーヒーにした方が良かったかな、と寝ぼけた頭でぼんやり考える。レンジから音がしたので取り出して頬張る。駅構内のチェーン店にはいける味。だが同じ駅構内でも赤羽のアレはダメだ。

頭が動かないのでシャワーを浴び、ようやく人心地に。まだエアコンが取り付けされていない自室へ行き、デスクトップ PC が轟音を立っているなか、ノート PC をスリープから立ち上げる。もちろん立ち上がってくるのは Debian だ。gdm のパスワード入力に答え、雑然としたデスクトップの状態を眺める。さて、メール処理からやってみるか。sylpheed の画面を開く。昨晚でびあん傘の注文を受けて返事を書いたが、まだ送信してないのに気づいたので一気に送信。今回は何名か GPG encrypt してくれたが、sylpheed からサクッと処理が出来ずにローカルの適当なファイルにコピーしてターミナルから `gpg --decrypt` なんぞをやっている、とほぼ。相変わらず「手間を減らす」事が下手なのに嫌気が。ついでに Google Docs に注文状況のメモ書きをまとめる。ふと inbox を見るとスイスのその傘の首謀者からメール。郵送に EMS を使ってほしかったが、「それ聞いたことが無い」とのこと。彼が示した URL から EMS の国別状況のページが見つかったので、そちらをメール。うまくいくといいが。

事務処理はまだ続く。Debconf10 にいく事は決めたのだが、チケットの都合上、早く行くことになってしまった。宿を取らないと...と思って HIS で適当なのを予約したが、よくよく聞くと Debconf 会場でも支払いさえすれば前乗りできる様子。ということで NY の締切りに間に合うように penta.debconf.org から登録情報を修正し、SPI ヘクレジットで振込処理。ふー。HIS の方は Debconf 側が取れたのを見計らってキャンセルだな。

まだ事務処理。昨年寄稿した Software Design 誌の Debian JP サイトへの再利用許可が gihyo 方面から許可を出していただけたので、理事会に共有しておく。実際にウェブページへの反映はいつやろうかね...。Debconf 記事の売り込みも返信ついでにやっておく。旅費が、ね。それから、Debconf といえば GPG キーサインパーティ。今年の手順はこれだぞ! と岩松先生から送られてきていたので、登録作業を実施。http://people.debian.org/~anibal/ksp-dc10/ksp-dc10.html を見ながら、「あれー俺のキーっていくつ?」などとフザけたことを思い、`gpg --list-keys` して見つけるなど。pub key が分かればあとはページどおりに進めるだけ。一応 port25 ブロックの影響で届かないとか嫌なので自分宛にもメール、届いた。

まだメール処理。identi.ca で Gregkh 先生に「あなたの twitter クライアント (bti)、OAuth 対応してる?」とダイレクトで質問してたのに返答がきてた。「まだなんだよねー、わかってんだけど」とのこと。squeeze のフリーズと twitter の OAuth 以外拒否が近いので、対応してないクライアントは一旦ドロップしないとイケない。リストを簡単にアップデートしておく。とりあえず、キリがなさそうなので一旦メール処理終了。

バグ潰しに入る。といっても自分のパッケージのバグではなく、FTBFS なバグ。Lucas Nussbaum さんが大量に登録してくれているので、彼の登録したバグをみていくことにしている。昨日のうちにめばしいものは pbuilder を使ってローカルでビルドするなどしてリストアップしてあるので、後は処理メールだけ。17 個ほど同じ原因の RC bug に対して <bugnumber>-done@bugs.debian.org 宛にメール。1 個は手元の pbuilder で再現しないので unreproducible タグをつけて control@bugs.debian.org へ。もう 2 個はエラーが指し示すとおり Build-Depends を微調整するだけでなおるので、ビルドできる事を確認してから patch タグをつけて送る。これで 20 個ほどバグが減る方向へ進んだわけだ。残りがこれくらい簡単なのばかりだと楽なんだが。

## 2.4 キタハラ

寝床の Web 巡回マシンが Debian(lenny) です。少々怪しいリンクを踏んでも、Windows より耐性があるかな? というあまり根拠のない理由からです。最近は flash も動きますし、Video も見れますし、不自由な事はあまりありませんね。

## 2.5 山本浩之

ある晴れた日曜の一日

ぐったりとして、朝、目覚める。まずモニタをつけて昨日の debuild の確認。む、なんか gcc-4.4 がビルドエラーしてるな。どうやら symbols の不整合で、最後の最後に、lib32gomp1 パッケージを組めずにエラー吐いているらしい。そういえば gcc-4.3 から ppc64 のパッチは投げられてなかったな。さて、どうしよう。よし、てきとーに、lib32gomp1.symbols.ppc64 にコピペしてみるか。お k。debuild 開始。

(んで、MythTV で録画しておいた ONEPIECE を見て、モニタを消して、寝る)

夕方、再度目覚める。ああ、よく寝た。む、また lib32gomp1 パッケージを組めずにエラー吐いたな。ええい、くそ、こうなったら libgomp1.symbols.common にコピペだ。よし、お k。debuild 開始。

(んで、MythTV で録画しておいた龍馬伝を見て、モニタを消して、寝る)

以上、ある晴れた日曜の一日でした。

## 2.6 鈴木崇文

仕事のデスクトップ環境と、自宅サーバ兼ルータとして使用しています。デスクトップ環境については、Debian の様々なパッケージが利用でき、さらに rpm 系のコマンドも利用できるため、rpm 系の作業も deb 系の作業も手元でできるのが利点です。自宅サーバ兼ルータについては、potato の時代に debian をインストールして以来アップグレードをして日々使用し続けていますが、ほとんど問題なく稼働しています。

## 2.7 まえだこうへい

### 2.7.1 起き抜けの一発

ドスン! 「グヘッ」

鳩尾にいつもの衝撃が目覚める。こまめが朝の餌をヨコセと、今朝もやってきた。無視して寝直す。ヨメの方の掛け布団の上の方に移動したようだ。タイマーでめざましテレビがついた。さて、起きるか。こまめも同時に”チャチャン”という鈴の音を立てて先回り。こまちゃんの餌をやる前に MacBook の電源を入れる。起動させている間にこまめの餌と水をやる。

顔を洗い、着替えを手にしてサーバルームへ。起動した MacBook の Sid にログインし、`apt-get update; apt-get upgrade` を実行し、その間に執筆中の本の原稿を `git pull` する。終わったら、バナナを食べて 6:33 の始発のシャトルバスで出かける。夏に電車のダイヤ改正に合わせて、シャトルバスのダイヤも変わってしまったので、通勤中に座れなくなってしまった。無論、通勤中には MacBook を使えないので、milestone で RSS フィードの購読をする。

### 2.7.2 始業前の一時間

8 時過ぎに会社のビルに到着後、朝食を調達し、朝一の小便を済ませ、会社のリフレッシュルームで原稿を書く。この一時間弱が一日で唯一のプライベートタイムだ。Debian 勉強会で発表をするときも、ここで資料を作成する。

### 2.7.3 始業後の日課

9 時になりオフィスの自席で、Sid の入ったデスクトップ PC を立ち上げる。仕事での検証は専らこの貧弱なマシンで行う。Sid の CouchDB は未だ 0.11 なので svn のリポジトリから `git-svn` で最新のリビジョンを持ってきてビルドする。

おっと、今日は CouchApp のリポジトリも更新されているようだ。git pull 後に、deb パッケージ化してアップデートしておこう。

#### 2.7.4 昼休みのメンテ

昼休み、今日は組合サーバにログインする。表のサーバは未だ Sarge なのだが、Sarge の APT は Proxy サーバの NTLM 認証に対応していないので仕方ない。Sarge の背後で動かしている Squeeze のパッケージアップデートだけを行った。

#### 2.7.5 帰宅後のこまめ、家事

帰宅後、着替えて、こまめの餌と水をやる。今日はワシが食事当番なので、いつもの納豆料理をする。作り終わる直前にちょうどヨメが帰宅。今夜も美味しくできたな。

食後にヨメが食器洗いをしている間に OOo で管理している家計簿をつけながら、メールのチェック。Debian パッケージのセキュリティ通知があるのに気づき、OpenBlockS の Lenny のパッケージをアップデートし、Tripwire の DB を更新しておいた。そろそろ OpenBlockS も Squeeze にアップグレードしないとあかんあ。ぶらっとホーム提供のファームウェアは Linux Kernel 2.6.16 ベースなので Squeeze にはそのままアップグレードできない。クロスコンパイル環境を作って、ファームウェアのビルドを計画しなければ。そんなことを思うが、やはり夜は頭回らない。さっさと寝ることにしよう。

## 2.8 荒木靖宏

### 2.8.1 朝

まず twitter client を確認。ここで cdn.debian.net に何かあれば通知されていることが多い。次に ar@debian.org あてのメールを確認。

### 2.8.2 昼

Debian、Ubuntu、Fedora、CentOS などがいりまじった環境をいじっている時は、問題にあたれば検索、さらに確認をくりかえす。実は BTS をみない日のほうが多いかも。

### 2.8.3 夜

IRC 会議がなければ特になにもやる元気もなくなおれる。

## 2.9 小室文

朝起きたら、Debian の desktop を立ち上げ、aptitude update/safe-upgrade をして、ほげほげして、会社についたら Debian のノートブックを立ち上げ、リモートの Debian サーバをほげほげして、ローカルな Debian マシンで、新しいパッケージを試してはニヤニヤして、満足して帰ると一日を毎日しています。

## 2.10 吉野 (yy-y-ja-jp)

いろいろ考えてみましたが、一日のうち Debian を PC 以外では利用していない気がします...

## 2.11 日比野啓

朝の通勤中に座れたときには Debian sid の入ったノートで OCaml のプログラムを書く。会社に着いたら、やはり Debian sid の端末で、emacs の twittering-mode を使って twitter をチェック。すっかり関数型クラスタになっている friend timeline から情報収集。おもしろそうな論文を発見したら取ってきておく。OCaml や Haskell のおもしろそうなライブラリを発見したら、Debian package になっているかチェックしつつ試しにインストールして遊んでみる。

関数型脳があたまってきたところで、Haskell で書いている業務プログラムの拡充。とかやっている間にアルバイトの学生さんが質問しにきたりする。彼らの半数はやはり Debian を使って開発している。頭の中を関数型から Perl に切り換えたり Java に切り換えたり。

気がつくとき夜になっていてへろへろなので帰る。帰りの電車の中でも OCaml 書き。

## 2.12 tai@rakugaki.org

## 2.13 生活環境として...

実は X は見切りをつけて GUI 環境は Windows なのだが、これは Debian 上の VM。そして、ウェブサーバーやデータベースなどの各種サーバも同様に VM にして kvm や openvz/lxc で稼動。なので、

1. 手元 PC でおもむろにリモートデスクトップを起動 ( mstsc.exe や rdesktop )
2. VM な Windows に接続
3. その中でホストにログイン
4. emacs や w3m を開いて生活 ( GUI ものは Windows 側 )
5. 特定のサーバをいじるときだけ vzctl enter/lxc-console で接続

というのが毎日の生活手順。

Debian らしい? ユースケースとしては、kvm/openvz/lxc が使う rootfs は実体は aufs でクローニングされた環境で、それを rootdir/nfsroot 対象にして稼動していたり。このあたりは非標準な aufs までビルドしており、さらに各種の仮想化機能を組み込んだカーネルパッケージを提供してくれる Debian は大変ありがたい。

## 2.14 端末・ルータとして...

上の生活環境にアクセスするための端末や各所の GW も多くが Debian。

端末は持ち歩き用は Windows だが、その他の各所に置きっぱなしの固定端末は全てディスクを Debian 入り CF/USB に差し替えて、rdesktop 端末になっている。ローカルで動かすのは ratpoison と rdesktop だけ。ここでも aufs 大役立ちで、真の/を/ro に移動させて/全体を aufs でラップすると、chroot /ro+upgrade で更新できて非常に便利。昔のオンメモリで動かす方式や一部フォルダだけ tmpfs を重ねる方式ではこうはいかない。

ルータとしては、Debian には標準で aiccu/miredo/radvd やらがあるので IPv6 ルータにもすぐなって楽。もっとも Tokyo6to4 の登場で不要になった...( そもそも IPv6 は管理用と ipv6.2ch.net とかつて MS が主催した InstallManiax でしか使ってない...)。最近 Vyatta にも手を出していますが、いずれも必要なら素 Debian に抜けて openvpn でも vtun でも httptunnel でも何でも使って穴を通せるのはとても安心。

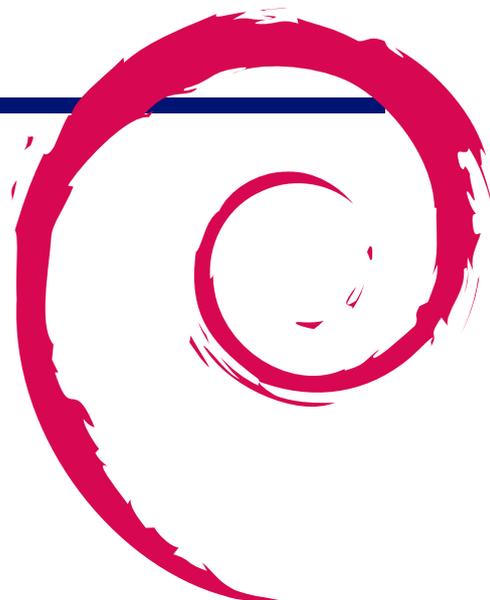
そういうわけで「困ったら Debian。とりあえず Debian」な一日です。え? RedHat/CentOS? そういう時は febootstrap/rinse ですよ。( ホント何でもあるな... )

## 2.15 hattorin

入社すぐ Debian 数十台マシンの Munin チェック Cron バッチで動く Oracle から Debian の Postgres への DB 連携動作チェック Quagga が動作する Debian マシンのパケットフォワーディング状況チェック

Debian 上で動く Rails コントローラーの改造しつつ、日々のネットワーク運用に必要なツール群が動作する Perl スクリプトの高速化処理を研究しつつ適用。おもむろに全 Debian への apt-get update。apt-get upgrade。

帰宅後、家のマシンで複数ホストへ仕掛けている Smokeping の動作確認。kernel.org にて新しいパッチがでていないか確認。

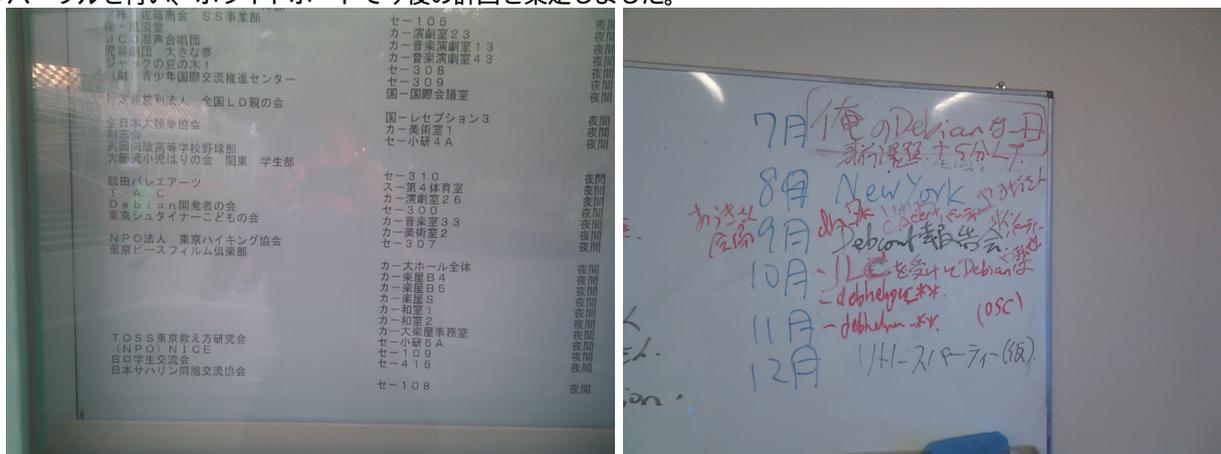


### 3 最近のDebian 関連のミーティング報告

岩松信洋

#### 3.1 東京エリア Debian 勉強会 62 回目報告

東京エリア Debian 勉強会の 62 回目は 2010 年 6 月 19 日にオリンピックセンターで開催されました。OSC 北海道のリハーサルを行い、ホワイトボードで今後の計画を策定しました。



## 4 OSC 北海道参加報告

荒木靖宏

荒木の発表は「あなたはどっち、Cloud で Debian, Debian で Cloud」という題で Debian での Cloud にまつわる話をしました。

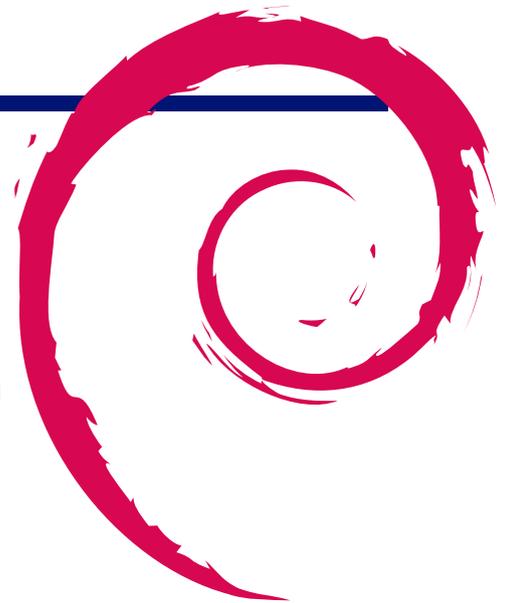
岩松の発表は「squeeze に向けた Debian GNU/kFreeBSD 入門」という題で Debian GNU/kFreeBSD がどのように Debian にはいり、どのように使用するのか、などの話をしました。

土曜日の朝最初のセッションで出足を心配したのですが、割り当てられた部屋はほぼ満員でした。

また、GPG キーサインパーティには事前に 6 人の参加表明があり、飛び入りもあり、合計 8 名でした。

## 5 Debian Conference 2010 参加報告

やまねひでき



### 5.1 DebConf とは

年一回世界中の Debian 開発者と関係者が集まって開かれるテクニカルカンファレンス「Debian Conference」のことです。通常顔をあわせることのないメンバーたちが世界各地から一同に介し友好を深め、技術的な議論を戦わせます。

#### 5.1.1 Debconf の歴史・経緯

過去の開催履歴を見てみると表 1 のようになります。

表 1 歴代の Debconf 参加者推移

年	名前	場所	参加人数
2000	debconf 0	フランス ボルドー	
2001	debconf 1	フランス ボルドー	
2002	debconf 2	カナダ トロント	90 名
2003	debconf 3	ノルウェー オスロ	140 名
2004	debconf 4	ブラジル ポルトアレグレ	150 名
2005	debconf 5	フィンランド ヘルシンキ	200 名
2006	debconf 6	メキシコ オアスタベック	300 名
2007	debconf 7	英国スコットランド エジンバラ	約 400 名
2008	debconf 8	アルゼンチン マルデルプラタ	約 200 名
2009	debconf 9	スペイン エクストラマドゥーラ	約 250 名
2010	debconf 10	アメリカ ニューヨーク	約 350 名
2011	debconf 11	ボスニア・ヘルツェゴビナ バニャ・ルカ	? 名

#### 5.1.2 Debconf 2010

今年の DebConf、DebConf10 (<http://debconf10.debconf.org/>) はアメリカ・ニューヨークのコロンビア大学で開催されました。日本からは、岩松 信洋、鈴木 崇文、やまねひできの 3 名が参加しました。

#### 5.1.3 会場

コロンビア大学キャンパスにカンファレンス会場としてトークルームに 2 室、BOF ルームに 1 室、AdHoc セッション用に 1 室、それから昼夜を問わずに作業する人のためのハックラボが 2 室設けられました。NYC という大都会の大学キャンパス(すぐ側に 24 時間運転の地下鉄駅がある)での開催ということもあり、会場周りは昼夜を問わずかなり賑やかな状態でした。ニューヨークと言うと危険なイメージがあるようですが、怖いのは街中を歩いてもものすごく体格のいい人が多いこととタトゥーな人が多いことぐらいです。

今回のネットワークは、コロンビア大学の屈強なバックボーンへ GuruPlug なども使った即席手作り感満載のネット

ワークが接続されてました。無線が非常に繋がりにくいなのって…。また、Debian のミラーサーバについては、前年のスペインでは DNS を乗っ取ってローカルのミラーを見せるようにしていたようですが、今回はコロンビア大学のネットワークを利用している為にそういう訳にもいかず、cdn.debian.net を使うのはどう？ ディレクトリ構成が違うからコロンビア大学は加えられない 変えたよ！ cdn に追加したよ！ という感じで最終的に cdn.debian.net の改善に繋がったりしました。この後も色々 cdn.debian.net には要望が出たり、Debian Live の標準 apt line に加えられていたりとい感じでした。荒木さんに拍手。

## 5.2 スケジュールとイベント

今回は 8 月 1 日から 7 日が開催期間で、間の 1 日が Day Trip として Coney Island というニューヨークの端のビーチでのんびり & マイナーリーグの観戦という形でした。例によって DebConf 期間の前に 1 週間 DebCamp という開発合宿も開かれていたようです。

今回イベントとして「RCBC(release critical bugs contest、<http://wiki.debconf.org/wiki/DebConf10/RCBC>)」と題し、皆で RC(Release Critical) バグを潰そう、というものが開かれました。これによって 100 個以上のバグが一気に修正され、多くのバグを潰した人には懸賞として GuruPlug や HP の elite book やネットブック、書籍類などが進呈されていました。この期間中に岩松さんが 3 個、私は 1 個潰しましたので書籍を頂きました。でも英語なんですよね…。

## 5.3 セッション

今年は大きくトラックカテゴリとして「コミュニティ」「Java」「サイエンス」「エンタープライズ」「メディア & アート」が設けられ、それぞれに合わせたセッションが開催されました。で、肝心の内容ですが、これを書く時間が無い & もう Software Design 2010 年 10 月号で書いた & ウェブから大半のセッションが見れますよ、なので SD とウェブで見てください…。サイトは <http://www.debianart.org/live/> です。

Debian が多くの派生ディストロの「Hub」として振る舞うことを意識した話で「Derivatives Front Desk」を設けて派生ディストリビューション間での交流を進めていくことや、特に Canonical サイドからなるべく Debian にフィードバックしようという話が盛んに出ていたことが印象に残ります。Canonical としては自前で変更点を保持していくのがコスト高なのが懸念点なのでしょう (Nexenta も Solaris 対応のパッチ維持が大変なので、という発言をしていました)。

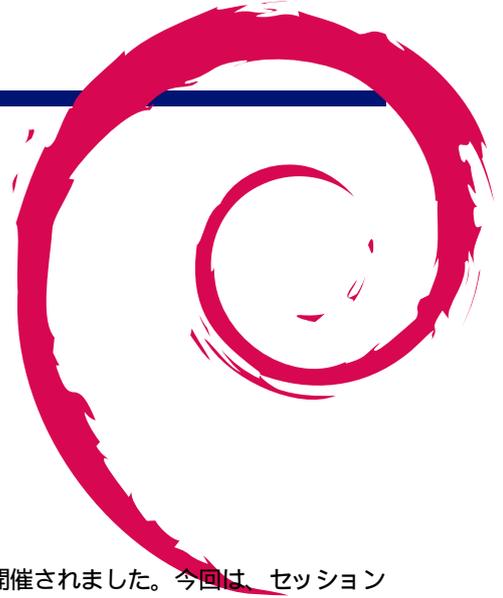
それから Stable に対する見直しの話が出ています。安定版をより使いやすいものにするために方針を緩めて「BTS 上で important 以上のバグ修正」「FTBFS(failed to build from source, ソースからビルドができない問題)の修正」「セキュリティ 勧告がでていない致命的ではないがセキュリティ上の修正」をポイントリリースで取り入れていくそうです。

## 5.4 次回の Debconf

来年はボスニアのバニャルカが開催地です。政府の全面バックアップがあるようなので Free Beer に期待。

## 6 OSC Tokyo 2010/Fall 参加報告

まえだこうへい



2010 年 9 月 11 日 (土) に、OSC Tokyo 2010/Fall<sup>\*1</sup>が春と同じく明星大学にて開催されました。今回は、セッション 2 つとブース展示です。

セッションは

- GPG キーサイン説明および GPG キーサインパーティ<sup>\*2</sup>
- でびあん らんだむとびつくす<sup>\*3</sup>

で、前者は岩松さんが、後者はやまねさんが発表を行いました。

GPG キーサインパーティには岩松さんを含め 10 名の参加<sup>\*4</sup>があり、GPG キーサインの説明の後、その場でキーサインが行われました。キーサイン自体が初めての方も半数くらいいて、参加者のうち大半はその後ブースにも立ち寄りくれました。

らんだむとびつくすは、Debian 17 執念、Debconf10、Squeeze の話でした。参加者は 20 名を超えて、資料は文字がほとんどなく、後から資料だけを見ると大抵さっぱりと思われる内容ですが、こちらも盛況でした。

ブースでは、Debian 関連の書籍と、Squeeze on OpenBlockS 600 の展示、Debian へのコメントを一言、を行いました。一言もらった方にはぐるぐるステッカーを無償で差し上げる、という試みを行いました。また Debian ではなく Ubuntu しか使ったことが無いですが何か? という人がかなり多かったのですが、そういう人に対しては Ubuntu に対する意見でも構わない、ということを伝えたのでコメント記入の敷居が多少下がったようでした。

終了後、やまねさん、山本さん、まえだの三名で高幡不動のとんかつ和幸で打ち上げ&反省会を、その後タリーズに移動して、Miniconf の開催についてのディスカッションを行いました。<sup>\*5</sup>

<sup>\*1</sup> <http://www.ospn.jp/osc2010-fall/>

<sup>\*2</sup> <http://www.ospn.jp/osc2010-fall/modules/eguide/event.php?eid=47>

<sup>\*3</sup> <http://www.ospn.jp/osc2010-fall/modules/eguide/event.php?eid=9>

<sup>\*4</sup> 事前登録は 12 名。

<sup>\*5</sup> 今回のネタにリンクする、というわけです。

## 7 LinuxCon Japan 2010 参加報告

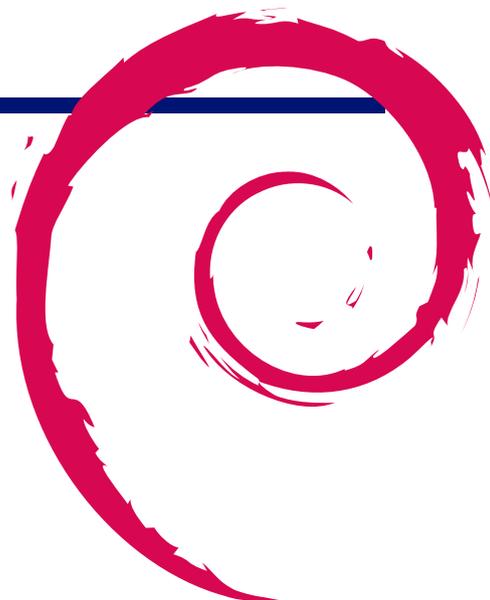
鈴木崇文

---

LinuxCon Japan 2010 は 9 月 27 29 日の日程で六本木アカデミーヒルズで開催されました。参加したセッションは主に次の二つです。

- MeeGo
- Samba

また、同日開催された CELF BoF について、Ubuntu 絡みの話について聞いてきたので、セッションの内容について、および、今回の LinuxCon の規模、参加者、その場の雰囲気について、今回の勉強会で報告します。



## 8 ある Debian な一日

上川純一

### 8.1 始まり

朝起きる、ワシントン DC で買って来たスターバックスのマグカップに湯を注ぎココアをいれる。まだ外は暗い。おもむろにマシンを起動する。SSD ベース<sup>\*6</sup>の vaio type P はしずかに起動する。grub は Linux パーティションを自動起動するように設定されており、ひとしきり Linux の起動メッセージが画面に流れたあと GD のログイン画面が登場する。ユーザ名とパスワードを入力。画面はきりかわり、いくつかのアプリケーションが自動で起動する。pidgin, google-chrome, emacs 22, gnome-terminal。

毎日ではない、でも週に一回はこの日がくる。今日はバックアップをとる。USB 経由で接続できる 2.5 インチディスクを接続し、ディスクがスピニングするのを待つ。backup.sh を実行すると LVM ボリュームのスキャン、ext3 ファイルシステムのマウントと pdumpfs の実行処理がはしり、かりかりとバックアップがとられる。定期的なバックアップ作業の一環として、ディスクの使用量を確認する。df -i で inode の残量、df -h でディスク容量の残量を確認する。まだ余裕があるようだ。

```
$ df -i
/dev/mapper/vgvaio-vaiohome
 5242880 417994 4824886 8% /home
/dev/mapper/vgusb1-coreduohome
4587520 1116140 3471380 25% /mnt
$ df -h
/dev/mapper/vgvaio-vaiohome
 79G 64G 12G 85% /home
/dev/mapper/vgusb1-coreduohome
 69G 46G 21G 70% /mnt
```

メールを取り込む。メールは ssh 経由の独自のパッチプロトコルで取得する。これは高レイテンシネットワーク (Air H<sup>TM</sup>) をつかっていた時代からの名残りだ。そして M-x w1 で wanderlust を立ち上げる。

### 8.2 開発環境のメンテナンス

開発環境をメンテナンスする。

まず、パッケージを最新にする。apt-get update, apt-get upgrade, apt-get dist-upgrade を行う。手元の環境はときにより stable だったり testing だったりする。最近 vaio type P では stable を使っている。

開発用につかっている chroot イメージをアップデートする。cowbuilder --update で最新のパッケージをダウンロードしていく。chroot 環境は sid を基本としている。

あと他にも chroot 環境がいくつかあったりする。cowbuilder ではない環境も用意してある。/home をバインドマウントしている chroot ディレクトリがあり、chroot\_sid.sh コマンドでその環境に入れるようにしてある。自作の jchroot

<sup>\*6</sup> 内蔵ディスクが HDD ではなくて SSD のモデルがある。

コマンドを使い現在の実行しているユーザ、現在のディレクトリと同じ場所、で chroot 内部の bash が立ち上がるようになっていた。標準の chroot コマンドだけだといまいちかゆいところに手が届かないのと、dchroot コマンドの実装がいまいち気に入らないから自作してしまった。

手元の apt ミラーとして approx が動いているので、同じパッケージを複数の chroot 環境で必要となっても大丈夫だ。

### 8.3 バグレポートの処理

パッケージのメンテナンスをする、主となるのはバグレポートの対応だ。バグレポートは <http://bugs.debian.org/> のウェブインタフェースで確認できる。手元で欲使うのはメールインタフェースだ。バグ報告はメールとして送られてくる。

emacs をたちあげ、wanderlust を立ち上げる。バグレポートにパッチが添付されていれば、それを適用する。手順としては、“e” でメールをファイルとして保存し、そのファイルをソースコードのディレクトリに移動して git am で適用する。今日は pbuilder のバグ処理をしているので、pbuilder のソースツリーのディレクトリに移動し順にパッチを適用していく。

残念ながらこの一番シンプルなフローにしたがってくれるバグ報告は少ない。ほとんどのバグ報告はパッチつきではないし、ついていても手直しなしで適用できるものではない。そういう場合はいろいろといじってから git commit することになる。

### 8.4 テストとリリース

パッケージをビルドしてテストするスクリプトは自動化している。emacs lisp で書いてあり、emacs からビルドとテストが実行されるようになっている。cowbuilder --build を実行して、すべて成功したら日付別になっている「成功したファイル置き場」においてくれるというもの。

管理しているパッケージはすべて debian/pbuilder-test/ ディレクトリにテストスクリプトがあり、そのスクリプト全部が正常に実行できれば基本的な動作はできていると考える。メンテナンスのコストを軽減するためにはテスト重要。

正常な動作をするパッケージが生成できるソースコードが準備できたら、debian/changelog を整備する。まず、git dch -a で changelog の雛形を生成して、編集。debian-changelog mode をつかって、C-c C-e C-c C-d unstable C-c C-c.

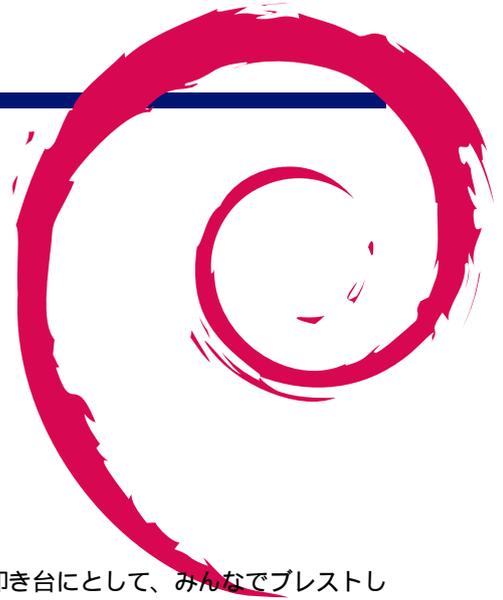
git commit して、git-tag.sh というスクリプトを使って署名つきのタグを作成。前出の elisp を使って最終版のパッケージを cowdancer 環境でビルドする。debsign コマンドでできたパッケージに署名、その後 dput でアップロード。

しばらく放置していると ftp master から無事に accept されたというメールがくる。これを受けてリポジトリの内容を git push --tags, git push する。

新しいパッケージがこれでリリースできた。

## 9 Mini Debconf にむけてのディスカッション

山本浩之



mini debconf を日本での開催実現に向け、ディスカッションを行います。以下を叩き台として、みんなでプレストしてみましょう。

### 9.1 セッション内容

#### 9.1.1 前提

基本英語でやれるように...したい。でないと、海外から招待したゲストがまったく分からん状態になる。

#### 9.1.2 Embedded

- 組み込み系と distro の間の溝を埋めるようなことができないか。一から古いバージョンのソースをスクラッチで作っているような状況を debian をつかうことで改善できるような提案ができるか強い。
- Emdebian の取り組みを聞けたりするとうれしいか?
- porting についてのネタも聞きたい。

#### 9.1.3 Free ( like Debian day)

- Free とライセンスという観点から Creative Commons とコラボレーションはどうか  
「コンテンツ制作者」と「ソフトウェア制作者」は微妙に層がずれているので、自由な制作物を生み出すライセンスという観点から、ここで交流ができないものか。自由なコンテンツと自由なソフトウェアの交流で、少しでも debian に自由なコンテンツが流入して豊かなソフトを利用者に提供できないか。

#### 9.1.4 事例集

- 利用事例を出して、CentOS ではなく Debian を選択肢として考えてもらえないか。要は最初に何をを使うかが肝。実際、RHEL にするつもりで商用ソフトでサポートが必要なら CentOS はありだと思いが、そうでなければ Debian で全く問題ないはず。なのに CentOS を使う例が結構ある。
- 実際に使っている gree さんとか、pixiv さんとか、楽天さん? とか、朝日ネットさんなどから話を聞ければありがたい。
- これから Linux を利用しようとする場合に実際に利用している、ある程度の成功を収めている例があるのは心強い。さらに優位性を説明できればなおよい。

#### 9.1.5 言語系セッション

需要高い?

### 9.1.6 その他

- derivatives セッションとかどうだろうか。
- エストレマドゥーラの自治体の発表とか聞ければ楽しいか？
- ライセンスセッションとかあってもいいかも。この前 java-ja でも結構盛り上がった。でも日本語ベースになると思われる。

## 9.2 5H2H

### 9.2.1 When

2011 年前半がいい？ 2010 年はもう難しい。2011 年後半だと時間が経ちすぎ。

### 9.2.2 what

次の 2 つは相互に影響しあう。何をするか( 何ができるか ) と、何を目的にするかは鶏と卵。

- 何をするか  
セッションネタを考える
- 何を目的にするのか
  - 開催した後に何が成果になるのか
  - 誰をターゲットにするのか
  - debian とどういつながりにするか
  - スポンサーしてくれるところへのメリット( ここを重要視しすぎない)

### 9.2.3 Who

- スタッフの必要人数  
何に何人必要？ 何がタスクとしてあるのかを洗い出す。
  - 事務局、当日受付、機材準備、通訳
  - 実際の例を確認する

### 9.2.4 When

開催する内容( セッション、イベント ) との兼ね合い

### 9.2.5 how much

費用はどの程度かかるのか

- 招待者の旅費、宿泊費、食費
- 会場費
- ネットワーク機器、電源周り、ビデオ撮影、マイクなどの機材

### 9.2.6 where

海外から人を呼ぶならそれなりに接続が良い・移動に費用がかからない方がいい

## 10 索引

---

approx, 15

cowbuilder, 15

dchroot, 15  
DebConf, 10  
DebConf2010, 10  
df -h, 14  
df -i, 14

emacs, 14

gnome-terminal, 14  
google-chrome, 14

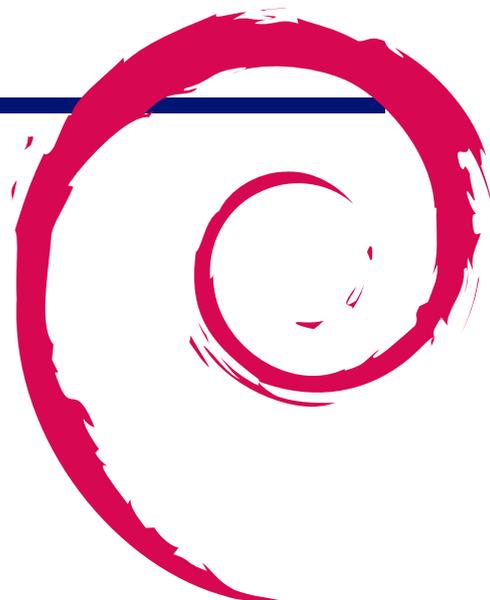
jchroot, 15  
JLC, 13

Miniconf, 16

OSC Tokyo 2010/Fall, 12  
OSC-Do 2010, 9

pdumpfs, 14  
pidgin, 14

wanderlust, 14





Debian 勉強会資料

2010年10月16日 初版第1刷発行  
東京エリア Debian 勉強会(編集・印刷・発行)

---